

きっと、もっと、きたもとが好きになる 旬な話題をお届け!



隅田川を行く帆掛け船(絵はがき)：明治41(1908)年の写真。荒川を下った船は、やがて隅田川に入り各河岸を目指しました。高尾河岸に出入りしていた帆掛け船もきっとこのような姿だったのでしょう。

[田島和生家蔵]



石戸尋常小学校5年生の日記：毎日川で遊んでいた子どもの目にも帆掛け船は印象的なものだったようです。明治40(1907)年頃の日記です。

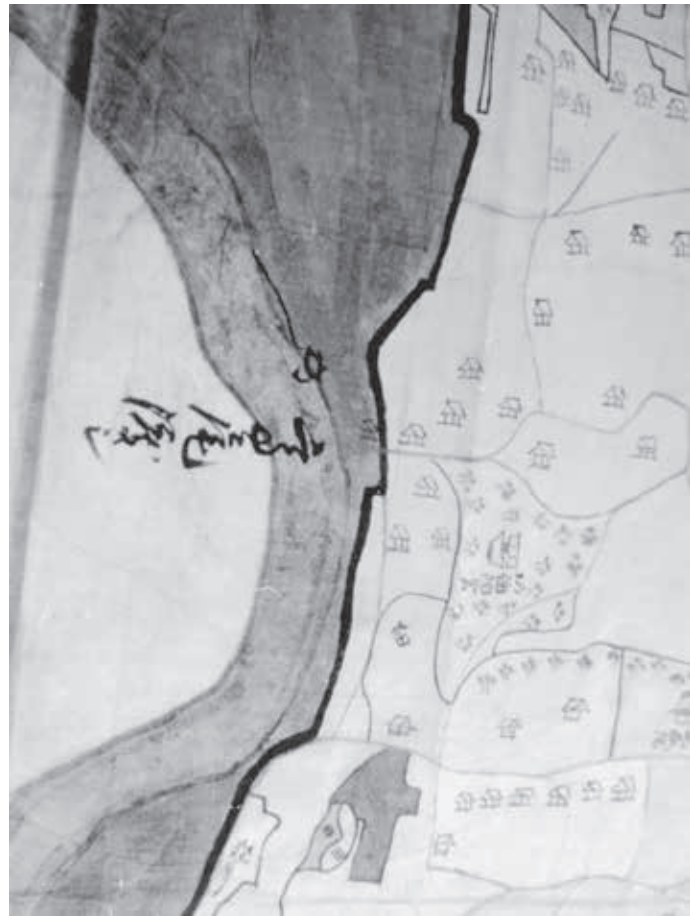
[北本市教育委員会蔵]

## 高尾河岸 と舟運

たかがしと  
しゅううん

北本の歴史を探る ①





## 高尾河岸の役割

高尾河岸の歴史は古く、元禄3(1690)年には近隣の村々の年貢米を積み出す幕府公認の河岸として記録に登場します。高尾より上流にも河岸はありましたが、大型の船が航行できたのは高尾河岸までといわれています。昔の荒川は曲がりくねっていたので、流れは緩やかで水量が豊富でした。

舟運は、陸運より重い荷物の輸送に適していたのです。高尾河岸に出入りする船は、現在の鴻巣・桶川・菖蒲・騎西などの商店と、浅草・柳橋・小伝馬町・本所・神田明神下・茅場町・八丁堀などの商店の荷物を運んでいました。何となく時代劇に出てくる地名を見ているようではありませんか。

北本の歴史を探る ①

# 高尾河岸 と舟運

たかおがしと  
しゅううん

江戸時代から明治時代中期頃まで、北本で一番賑やかなところは高尾河岸でした。人の往来で賑わったのが中山道だとすれば、高尾は舟運の物流に関わる人たちで活気に満ちた場所でした。今回はそのような高尾河岸を、紹介します。



絵図に描かれた高尾河岸

今から320年ほど前に描かれた絵図面の一部です。「高尾渡シ かし」と書かれています。中央縦に太く描かれているのが荒川左岸のラインです。阿弥陀堂の位置を参考にすると、現在の道と比べてみることができそうです。

[元禄9(1696)年林場絵図 北本市教育委員会蔵]

河岸(かし)は、水陸の交通が交わるところに生まれた荷物輸送の拠点です。船着き場があるだけでは河岸とはいいません。流通に関わる人々が町を形成している場所を河岸といいます。元々は、領主が年貢輸送のために整備したものでしたが、やがて一般の荷物も扱うようになっていきました。

コラム Column



御用旗



いかり、もやい綱



帆柱

## 船問屋に残る舟運のあかし

かつて船問屋を営んでいた田島家には、長さ約14メートルの帆柱が残っています。この帆柱を立てた船は、どれほどの大きさだったのでしょう。田島家には、いかり、もやい綱、舟運関係の書付けのほか、年貢など公の荷物を積むときに掲げた「御用」、「官許」と記された旗も大切に保存されています。



高尾河岸場跡(平成3年)





水神

河岸周辺に住んだ人々は、近所付き合いをする範囲を河岸組と呼ぶ。この水神は今も河岸組の人たちがお祀りしている。



道標

昭和62(1987)年、土中から見つけ、河岸組の有志が現在地に再建した。元はもう少し坂を上った場所にあった。「東かふのす道 西よしみ道」と彫られている。



観音堂(妙音寺)

### 高尾河岸周辺復元図(明治時代中期頃)

※田島和治氏の調査資料に基づいた復元図をイラスト地図化



高尾河岸周辺の現在の地図



阿弥陀堂

珍しい鐘楼を構えるお堂。境内には、エドヒガン(市指定天然記念物)のほか、多くの文化財がある。



河岸稻荷

宝珠を転がし、子狐と遊ぶ一対の狐。水盤には、「願主 高尾村田島此右衛門 川岸組氏子中」と彫られている。



これより石と舟とみち

享保12年銘。現在はレプリカ。(右面)これより石と舟とみち (正面)西【たかお】舟とみち 北【かう】の【す】みち

## しょうがなかったら高尾へ行け

江戸時代の高尾河岸周辺には複数の船問屋があり、船頭、船大工、馬方、荷揚げ人など舟運に関わる人たちが住んでいました。また、それらの生活を支える大工、煙草屋、小間物屋、うどん屋、料理屋、風呂屋、旅館など70戸ほどの家があり、小さな町を形作っていました。

船問屋とは聞きなれない言葉かもしれませんが。船問屋は、輸送を請け負った荷物の梱包を点検し、荷受帳に書き込み、船賃を受け取り、間違いなく先方に届けるための手続きをするのが仕事でした。船が出るまで荷物を保管する蔵を所有し、倉庫業も営みます。町全体のまとめ役



高尾河岸へ通じるメインルートの今の様子

人々の衣食住のすべてが高尾河岸周辺で事足りていたのです。高尾河岸へ通じるメインルートは、現在の高尾橋へ通じる急坂より二本南側の緩い坂道でした。高尾河岸を出た荷車は、緩い上り坂に向かいます。道は直角に左に折れ、河岸稲荷に出ます(左図①から②へ向かうルート)。そこを右に曲がると坂は勾配を増します。荷物を積んで上るのは大変だったと思われる。

鴻巣宿に近かったことも高尾河岸が賑わった大きな要因です。鴻巣と江戸の店を行き来する荷物の量はかなりのものでした。高尾河岸は中山道と江戸の

でもありません。船頭は、船を操るのももちろん、船に積まれた荷物に対する全責任を負います。河岸とお客の間を、馬の背や馬車で荷物を運んだのが馬方や馬力屋です。人力で荷車輸送をした人もいたでしょう。そのような

### 船で輸送されていた品物

#### ■慶応3(1867)年 [江戸 → 高尾河岸]

赤穂塩、氷砂糖、魚介類、スルメ、鯉節、薩摩節、皮鯨、海藻、新酒樽、味琳(みりん)、紀州梅、梅干し、白玉粉、椎茸、瀬戸物、木綿、火鉢鉄瓶、大桶、吉野大桶、半紙、空き樽、量表、釘、煙草、蠟燭(ろうそく)、紀州傘、砂、火打石、竿石、腸樽(わただる)

#### ■明治8(1875)年 [高尾河岸 → 東京]

新米、古米、餅米、大麦、小豆、大豆、えんどう豆、そら豆、胡麻水、酒粕、種粕、葉粕、杉板、薪、桐木、箆笥(たんす)

コラム Column

### 荒川には7匹の河童がいた!?

「荒川には河童がいる」という話は、高尾の人たちの間に広く伝わっていました。7匹いて、それぞれに名前があったといえます。明治36(1903)年生まれの新井宇一郎さんが言いました。「1匹はドウジンのヒコバエ、もう1匹はクメのマンガラ…あとは覚えてねえ」と。昭和50(1975)年頃に聞いた話です。

河岸をつなぐポイントだったのです。船積みする荷物を運びこんだり、荷揚げされた荷物を運び出したりするには、多くの人手が必要でした。高尾河岸に行けば何かしら仕事があったので、多くの人々が集まって来たのです。仕事でも生活用品でも何でもそろった場所でした。「しょうがなかったら高尾へ行け」「塩がなかったら高尾へ行け」と言われていたそうです。



現在の荒川



# 高尾の舟運を探る



旧船問屋 田島家

荒川の船に関しては、絵や図は見つかっていません。明治8(1875)年の記録では、高尾には40石積の船が4艘、20石積の船が1艘あります。40石積みとは米100俵積める大きさです。

船は、水量が少なすぎては航行できませんが、多すぎても危険です。江戸に向かって下るのは水量次第ですが、どうやって高尾へ遡って来たのでしょうか。風や満ち潮を待って船出したと思われる。風があるときは帆を上げて、帆を降ろしたら船頭や水主(かこ)が艫や棹で操ったのでしょうか。にわか

は信じられませんが、川幅が狭い場所では綱や棹で川岸から人が引いたといえます。江戸を出るときは満潮も利用したと考えられます。

江戸から高尾まで、どれくらいの日数がかかったのか大変興味があります。しかし、これはなかなか難しい問題です。自然条件と荷物の量、船の大きさによってばらばらだったからです。ある年の記録を拾うと、最低6日から最高17日まで：その差は何を意味しているのか、想像してみるのも楽しいと思います。なお、船の大きさは同じではありません。

これほど賑わった高尾河岸は、いつ頃まで機能していたのでしょうか。どうして無くなってしまったのでしょうか。明治時代になると年貢米の輸送という舟運の大役が無くなります。鉄道ができ、道路が整備され、自動車が登場し、物と人の流れが大きく変わります。だからといってすぐに高尾河岸が無くなったわけではありません。

明治40(1907)年頃まで高尾河岸で商売をしていた新井家には



舟運関係の帳簿(田島和生家蔵)

明治25(1892)年の『萬覚帳』(よろずおぼえちよう)が残っています。まだ複数運んだのは「腸樽」(わただる)だったことがわかります。腸樽とは魚の内臓を樽詰めにしたもので、麦畑などへまく肥料でした。田島家には明治23(1890)年の船税の領収書が残っています。これらを考え合わせると、高尾河岸は明治時代中期頃までは確実に機能していました。

舟運のシステムは、宅配便ととてもよく似ています。昔の人々の知恵の上に、今の便利な生活があると言えるでしょう。そのようなことを考えたり、確かめたりしながら、復元図を手に散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 現代の宅配便と江戸時代の舟運の運用比較

### 現代の宅配便

取次店へ持ち込み 伝票記入(宛先・送り主・品名)

計量 宅配料金支払い(着払可)

営業所へ集め、各地のターミナル別に仕分け

目的地のターミナルへ降ろす

ドライバーが宛先へ届ける

配達日時がはっきりしている!

### 江戸時代の舟運

船問屋へ持ち込み 荷送り状作成(宛先・送り主・品名)

計量 船賃支払い(着払可)

出航まで蔵に保管し、乗せる船ごとに仕分け

目的地の河岸へ降ろす

荷車、馬車で宛先へ届ける

いつ届くかわからない…